

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合 巣南グループホーム		
事業所名	グループホームすなみ		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357-1 (電話) 058-328-6201		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月27日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 1 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(退居時要実費)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 1 日 現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	82 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木クリニック、国枝医院、辻歯科医院、岐阜中央病院(緊急時)
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年目を迎えた民家改修型のこのホームは、代表者夫婦の「施設ではなく普通の暮らしをして欲しい」という情熱により、所有している敷地内に建てられた。代表者夫婦と看護師資格を持つケアマネジャー、開所当時の職員とが強い信頼感で結ばれ、離職も少なく、利用者の精神的な安定にも繋がっている。散歩や外気浴も毎日行い、日常生活動作が低下しないよう支援をしている。看取りについては、医療が必要となった時には「他施設・病院へ」と説明はしているが「その時まで添い遂げられる介護」を目指し、ケアを継続している。広い庭の畑では野菜が多く作られ、利用者も野菜の収穫や花を愛でて楽しんだり、居室から見える柿の実が朱く色づくさまに四季の移ろいを心に感じながらゆったりと暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、理念の文言に「地域」を加え、ホーム便りに個別の書き加えられる欄を作成し、入浴の際には重度化の利用者に便利のように手作りの椅子を作り、色別の食材を提供し、栄養バランスに考慮した献立の作成など、職員間で話し合い、即改善に繋げており、前向きな姿勢が見られる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況</p>
	<p>全職員が自己評価の作業を行い、それぞれに新たな発見と気づきを導いた。自己評価や外部評価を通して気づいた様々な課題やポイントは職員会議でも確認し合い、利用者本位のサービスの質の向上に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、自治会・広域・民生委員に加え、地元出身の代表者・管理者に協力して参加する近隣の人や家族の参加もあり、多くの人々による意見やホーム・認知症を理解する場となっている。消防訓練や地域行事の参加、ホーム行事の案内など、利用者も地域の一員となり、地域内で良好な関係性ができている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームは家族の意見や要望・苦情を受け止めようとの思いがあり、訪問時に気軽に言ってもらえる関係づくりに努めている。苦情申出は、苦情箱の設置や民生委員に第三者委員も依頼しており、毎月家族に送るホーム便りには、利用者の自筆によるひと言も添えられ、外出時や保育園児との交流・地域行事参加などの写真を多く撮り、ホームのありのままの日常を伝えようと努力している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>地元出身の代表者は地域に顔が広く、地域との連携・交流は他に類がないほど行われている。地域の夏祭りでは、ホームから菓子を提供し、保育園児や小学生など地域の子ども達と交流する中で、自然な形で次世代の子ども達の心に福祉が染み込んでいる。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価の改善課題であった項目であるが、職員間で話し合い、「地域」を加え、「ただいま、おかえりなさい」と言い合い、地域の中でゆったりと暮らせるように」と優しく語りかけるような理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者夫婦の情熱を汲み取った職員により、理念に沿った支援がさりげなく日々の中で行われるよう、ケア会議でも常に確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元出身の代表者は顔が広く、地域の祭りや地区運動会など、地域の行事には積極的に参加している。学校の運動会にはテントの下で声援を送る利用者もおり、地域の理解が徐々に進み、地域の一員として受け入れられている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホームとケアの振り返りであることを管理者は認識しており、全職員に意見を求めて作成したものである。この作業によって芽生えた新たな気づきは、職員間で共有され、日々の支援に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会や民生委員、広域の職員に加え、近隣の住民も参加し、毎回テーマや内容を変え、ホームからの経過報告に留まらず、幅広い層による意見の交わされる会議となっている。また、その内容は細かく記録されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域の担当者は毎回運営推進会議に参加しており、気軽に話し合える関係ができています。課題や相談も随時しており、行政との連携を常に取り、円滑なホームの運営を目指している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭出納報告と共に送るホーム便りには、利用者に自筆でひと言を添え書きしてもらっている。家族の訪問時に様子を伝えたり、電話で報告を行い、その内容も記録されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置はないが、管理者と職員に対して気軽に要望を伝えられる雰囲気ができている。家族からの意見や要望は、迅速に職員会議や申し送りなどで話し合い、改善に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	7年目に入ったホームであるが、開所当時の職員が多く、継続的なケアが行われている。新人職員には、雰囲気と利用者になじめないポイントを日々の支援の中から吸収してもらい、理念に基づいたケアを行えるようアドバイスをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、外部研修の必要性を認識しており、前向きに取り組めるよう機会を作っている。研修内容は、報告レポートをまとめ、職員に回覧し、周知している。月に1回のケア会議は休日の職員も積極的に参加し、少しでも利用者の情報を共有し、利用者にとってより良いホームとなるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の地域支部会に所属し、会議や勉強会で情報交換を行っている。	○	市内のみならず隣接市の広域の同業者とのネットワークを組織し、共同の研修機会や意見情報交換を行い、さらに職員とホームの質の向上を目指し、広域や行政にも働きかけ、相互の協働の場となるよう期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2～3日の体験入居を無料で提供し、ホームや利用者と馴染んだ上で、不安なく入居する人が多い。利用者の生活歴や情報を多く集めるために事前の聞き取りを何度も重ねたり、馴染みの物を持ち込める配慮を行い、適切な支援と対応をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別ノートの線引きを利用者が几帳面に定規を使って行ったり、洗濯物の四隅を合わせてたたむなど、職員は日々生活の中で利用者に教えられたり、助言をもらっている。我が家の祖母のような利用者に寄り添い「ゆったりと時が流れる我が家」と、理念に沿った支え合いを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし中でのなにげない利用者との会話・表情・行動からその人の好みや意向の把握に努めている。その情報は職員間で申し送り時などに迅速に共有され、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人ひとりに担当者が決められ、介護計画を作成する際は担当者からの情報を全職員で共有し、ケア会議を行い、利用者の心の底にある思いを汲み取り、家族の意見も聞いた上で介護計画に反映させている。今後は、できること・できないことシートの作成など細かい聞き取りを行う計画をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行い、その日その日の利用者の状態変化や家族の要望や思いを加え、現状に即した見直しを行える体制作りをしている。急変時も、その都度、柔軟に見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望で通院に同行したり、買い物や外出支援を行っている。介護相談や介護教室を開催し、地域住民に認知症ケアの対応を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体機能の低下を防ぐため、協力医との方針で、往診ではなく、家族や職員が付き添ってかかりつけ医に受診を行っている。ケアマネジャーは看護師であることから、かかりつけ医と連携を取り、利用者の体調管理に万全を払い、本人と家族の安心感を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてはグループホームとして限界があることを管理者と職員は認識しており、医療行為が発生した利用者には、他施設や病院へ移ってもらうことや医療関係同意書も合わせ、入居時に家族に説明を行っている。ホーム内で「その日まで添い遂げられる介護」を目指し、日々の支援をしている。	○	利用者の重度化に対する様々なケースを考慮し、対応手順や判断の順序・基準、家族の確認書などを再度練り直すなど、職員間での話し合いや指針の作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は、利用者の尊厳を大切にしようとの思いが根付いており、トイレの際にはそっとお連れするなど、さりげない配慮をしている。個人情報やプライバシーについては毎回のケア会議で視点を合わせるよう話し合いを重ねている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは利用者の意思とペースに任せ自由に行っているが、朝は利用者に明るく声をかけて起床を呼びかけている。食事の下準備・野菜の収穫・日にちをカレンダーに書く人など、各自の好きなことを日々の中で思い思いに行えるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	広い畑には多くの野菜が作られており、利用者は、自然の緑を楽しみながらの野菜の収穫、皮むき、配膳、片付けも一緒に行っている。利用者と職員は共にテーブルに付き、近隣の住民からもったり、畑でとれた新鮮な野菜を多く使った食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間帯に週に3回の入浴を行っており、5月には菖蒲湯を楽しんでいる。浴槽のまたぎが難しい人には、段差を解消する椅子を手作りし、ゆったりとのんびりと入浴を楽しんで欲しいとのホーム側の思いが感じられる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のやりがいや好きなことを最大限に發揮して暮らせるよう支援し、生け花や洗濯物の片付けなど、本人の活力を引き出せるよう働きかけに努めている。希望に応じ気晴らしにドライブに出かけるなど外の雰囲気に触れる楽しみも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や利用者の体調に合わせ、近所の散歩や買い物・外食などを行っており、外出時には利用者自身が支払いを行い、その人の持てる力が発揮できるよう、状況に応じて柔軟に支援している。季節ごとには利用者が作ったおにぎりを持って車で遠出をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を全職員は認識しており、玄関や窓は開け放たれている。管理者と職員の見守りによって利用者の状態は落ち着いており、現在勝手に出て行く人はいないが、外出の気配を感じた時は一緒に行けるような体制をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、運営推進会議でも話し合いを重ね、地域の人も参加して年に2回行っている。飲料水等の備蓄品も常に準備している。防火管理者研修を受講した代表者によって、今後は、避難経路・職員参集と役割分担等、細かく対応していく計画をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の改善課題であった栄養バランスは、職員間で話し合い、食材を色別に分けることで、改善された。食事摂取量・水分量・体重の増減を個別に記録し、利用者個々の健康管理を行っている。また、利用者の体調や状態に応じて、刻み食などにも対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室までの廊下には程よい高さの手すりが付けられ、2ヶ所のトイレは入りやすいようカーテンで仕切られている。二間続きの和室の居間には南から日光が入り、玄関と床の間には季節を感じさせる花が飾られ、庭には多くの野菜が実り、外気・採光・騒音なども配慮されており、利用者がのんびりと心地よく暮らせるようなホームとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームのものであるが、タンスやロッカーは本人の慣れたものが持ち込まれている。タンスの上には写真が飾られるなど、遠い昔を偲ばせる思い出の品も大切に置かれている。居室の入り口には、写真入りの表札がかけられている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。